

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和3年度第1回相模原市食育推進委員会		
事務局 (担当課)	健康福祉局保健衛生部健康増進課 内線 (5622)		
開催日時	令和3年8月5日(木)～8月20日(金)		
開催場所	—		
出席者	委員	18人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	6人(健康増進課長、他5人)	
公開の可否	<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	—
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議のため。		
議 題	<p>1 内 容</p> <p>(1) 相模原市食育推進事業の実施状況について(資料3、4)</p> <p>(2) 健康づくりに関する条例の制定及び次期計画策定に向けた取組について(資料5)</p>		

## 議 事 の 要 旨

(審議を書面で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、委員が一堂に会する方法により開催することが困難であったため、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

### 1 内 容

(1) 相模原市食育推進事業の実施状況について(資料3、4)

事務局より事業実施結果及び意見を求める書面協議書の送付を行い、次のとおり意見があった。

(鶴野委員) 食品衛生に関する講座開催による正しい知識の普及・啓発がオンライン視聴型となって活用されやすくなったと思う。ホームページについて利用していなかったため今回確認した。

(事務局) オンライン視聴型の講習会では、受講者アンケート結果から、都合の良い時間に受講できるという時間的制約の解消や繰り返し再生が可能という点がメリットとして挙げられ、これまで講習会を受講していなかった方の受講にもつながった。今後もオンライン視聴型講習会を継続していくとともに、市ホームページを積極的に活用し、食品衛生に関する正しい知識の普及啓発に努める。

(鶴野委員) 生活習慣病予防・親子向け食育レシピ集の作成について、食生活改善推進団体わかな会のレシピ・市ホームページから見て興味を持った。参考にしたい。

(事務局) 食生活改善推進団体わかな会は、例年公民館での調理実習を伴う教室を実施していたが、新型コロナウイルスが感染拡大している状況での実施が難しいため、代替事業としてレシピ集の作成を行った。今後はホームページでの周知のほか、対象者に合わせた配布を行い、健康づくりの推進を図る。

(伊藤委員) 生活習慣病予防料理講習会について、資料3 P.10 食育事業評価シートによる評価②に、食育に関する目標の評価内容「バランスのよい食事をとる大切さがわかった・少しわかった」と答えた人の割合とあるが、「わかった」では消極的評価なので、「わかり実行した・しようとした」のような評価内容にしたらどうか。

(事務局) 生活習慣病予防料理講習会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、資料4のとおり令和2年度は中止となった。この事業

では、バランスの良い食事等についての知識がない人に対して、まずは知識を得てもらうことを目的として、現在の評価基準を定めているため、知識を得られたかという視点で評価している。理解や実践の段階にある人に対して、段階に合った事業が紹介できるよう、他の事業について充実させていく。

(伊藤委員) 給食試食会について…小学校給食と中学校給食では、その方法、食事形態等の違いが多々ある。そのギャップに対し、児童が戸惑わないためにも6年生に中学校給食を体験する場を食育事業の一つとして考えたかどうか。

(事務局) 小学6年生を対象に中学校給食の試食会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から一時休止している。実施については、小学校給食の提供が無い日で、かつ中学校給食の提供が有る日となるため開催可能日数に限りがあったが、希望する学校が複数ある場合は公平性を重視し抽選で実施していた。開催可能となった場合には今後も取り組んでいく予定である。

(伊藤委員) 食品ロスについて…学校給食での食べ残し、とりわけ中学校給食の残食率が高い状況にある。「食べ物」が食べ残されて捨てられることは「食品ロス」であるが、このことに関し、食育事業の一環として、とりあげたかどうか。

(事務局) 食品ロスについては、市内小学校4年生を対象に小学校に出向いて講座を実施しており、その授業の中でごみの分別、減量、と共に食品ロスについてとりあげている。

学校給食の食べ残しについては、課題と認識しており、小学校低学年から、給食時間や関連教科の授業において、食に関する指導の機会を設け、食べ残しを減らすことで、環境や資源に配慮した食生活の実践につながることを児童・生徒に伝えている。そのほか、残菜を減らす取組として、一部の小学校において、皆があと一口残さず給食を食べる「ぱくぱくもぐもぐワンスプーン運動」を実施している。

また、中学校においても残菜調査の結果を学校と共有するなど、給食提供方式に応じて食教育・食指導に取り組んでいる。今後も給食・教科等の時間において、食品ロスも含め食に関する指導の一層の充実を図っていく。

(北島委員) コロナ禍で思うような活動ができない中、SNSを活用するという時代に合わせた活動が目についた。その中で確実に特にこれから育つ子ども達に向けた発信には「給食」を通すことがとても有効だと思った。SNSは自分からアクションを起こさないと手に入らない情報な

ので、両方をうまく使い分けていくと良い。保育園、幼稚園を通して保護者への情報発信も有効な手立てかと思う。

(事務局) 保育園では食育の発信として、保護者向けには、献立表、給食だよりを全員へ配布しているほか、給食のレシピを園に配架している。さらに、園ごとに食育の媒体を作成し、各園で掲示している。また、新型コロナウイルスへの感染リスクを低減するため、保育士は園児と給食を一緒に食べず、休憩時間をずらして給食をとる対応をしている。その中で、ひらがなで作成した献立表の掲示や、視覚的に食育を行うよう工夫している。今後も引き続き、効果的な食育を検討し、保育園・幼稚園と連携して実施していく。

(藤木委員) 昨年から今年にかけて新型コロナウイルスの流行により多くの食育事業が中止や延期になり、食育の推進に影響が出るなか、新しい生活様式に基づいた情報発信も考えていかなければならないようになってきた。

リモート配信、リモート参加、ユーチューブによる発信などは保育園や幼稚園でも行われており、自宅にいながら参加したり、学べたりは好評である。引き続き、工夫して食育推進を実施していただきたい。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の影響で、調理保育の機会が減少してしまっただが、代わりに屋外での野菜等の栽培に力を入れている。栽培した食物を持ち帰り、家庭で調理した結果を園内に掲示する取組を実施した保育園もある。今後も引き続き、効果的な食育を検討し、保育園・幼稚園と連携して実施していく。

(鈴木委員) 新型コロナウイルス感染拡大により、新しい生活様式に対応していかなければならない。コロナ以前は、食を通じたコミュニケーション「共食」だったが、コロナ禍では学校においても「黙食」の取組が進み、これまで同様に事業を進めていくことが困難である場面も出てきていると思われる。達成度の評価でDがついてしまうのも、やむを得ない状況であり、改善点の中で感染症予防に対する取組にシフトしていていることは良いと思う。

(鶴野委員) どの事業も感染症予防対策の中、できる限りの内容で実施されたことがわかる。

(事務局) 新型コロナウイルスの感染拡大により、これまで同様の事業実施が難しい状況の中で、各事業で新しい生活様式に対応した取組の検討または実施をしているところである。感染症予防対策をとりつつ、食育の推進が図れるよう事業を実施していく。

(田中委員) 新型コロナ対策によって、削減されたまたは中止した事項は、ICTを活用した非接触型等の工夫が必要ではないか。

(事務局) 令和2年度に縮小・中止された事業については、事業目的に合わせたインターネット等のICTの活用を推進するよう検討していく。

(平本委員) コロナ禍でイベント等が中止でも、積極的に参加してくれていた人がいて良かった。かえって食育の大切さに気が付いたのかもしれないと感じた。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等の実施が難しい状況ではあるが、SNSの活用や資料配布等、食育の大切さに関する啓発の方法について検討し、取り組んでいく。

(長瀬委員) コロナ渦で事業実施もなかなか大変かと思うが、状況に合わせた取り組みがあり、よい評価も得られているようで素晴らしいと思った。食は人をつくるので、食育はとても大切だと思う。

今後ますます、コロナのみならずいろいろな状況が巻き起こってくる時代になるかと思うが、市民の皆様が戸惑い不安等感じることなく健やかに暮らせるよう、発信も受信も十分になされることが大切だと感じている。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の流行等、これまで想定されなかった状況が起きた時に、食育の推進という目的を達成するためにどのような取り組みを行うことができるのかを考えることが重要であると考えられる。新型コロナウイルスが流行する中で各課が工夫して取り組んだ事例をもとに、発信および受信について推進していく。

(菅原委員) 新型コロナウイルス感染予防のため、各事業が中止となり残念に思う。新型コロナウイルス感染予防で情報を周知するにあたってインターネット・SNSを利用することは良い方法だと思う。しかし、ネット環境が無かったり、操作が分からない人達にどのように伝えるかが、課題だと思う。

(事務局) 新型コロナウイルス感染流行のため中止となったイベント等の実施の代替事業として、インターネット・SNSの活用を充実するとともに、ネット環境が無い方等については、図書館や公民館等の身近な場所を活用した資料配布等の啓発方法について検討し、取り組んでいく。

(2) 健康づくりに関する条例の制定及び次期計画策定に向けた取組について (資料5)

事務局より説明資料及び意見を求める書面協議書の送付を行い、次のとおり

意見があった。

(田中委員) 3計画をまとめるに当たっては、共通する事項の横串をさした内容(つながるとより効果的であること)が必要ではないか。

(鶴野委員) 3計画の一体化されることで総合的な計画の策定となることは望ましいことである。

(長瀬委員) 生き生きと健やかな暮らしのためには、いろいろな視点からの連携が必要不可欠だと思うので、3計画の一体化を支持する。

(北島委員) 目的が同じであるのだから、一体化は良いと思う。達成する手段として、それぞれの専門性を生かし、問題点は共有できるという利点があり、また、コロナの様な想定外のことにも迅速な対応が期待できると考えられる。

(伊藤委員) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束されずに1年以上がたち、日常の生活や心身の健康状態にその影響が及んでいる。このような時に、健康づくりに関する条例の策定や、次期計画に向けての取り組みが検討・作成されることはタイムリーなことだと思う。

対象は市民なので、実際の市民の生活状況や健康課題に即した条例であり、わかりやすく、実践できる取り組みであって欲しいと思う。

「絵に描いた餅」のようなものを作成して欲しくはない。市民の健康増進につながるものを期待している。

(事務局) 条例については、今後の計画に具体的な施策を定めるにあたっての指針となるよう、いただいたご意見を踏まえて検討を行っていく。また、今後の検討についても引き続き委員の皆様の御意見をいただきながら取組を進めていく。

以 上

令和3年度 第1回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏名	出欠
(一社)相模原市医師会	原 田 工	出
(公社)相模原市歯科医師会	鈴 木 進 一	出
学識経験者(相模女子大学)	堤 ちはる	出
学識経験者(東京家政学院大学)	田 中 弘 之	出
相模原市立小中学校長会	平 和 枝	出
(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会	平 本 大 輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	湯 田 里 子	出
相模原市栄養士会	鶴 野 由 香	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長 瀬 嘉 子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤 木 総 宣	出
相模原市農業協同組合	落 合 幸 男	出
神奈川つくい農業協同組合	山 野 和 重	出
相模原市立小中学校PTA連絡協議会	村 上 聡 子	出
相模原食品衛生協会	森 健 太 郎	出
さがみはら消費者の会	石 川 冬 子	出
公募委員	北 島 みどり	出
公募委員	伊 藤 裕 子	出
公募委員	菅 原 妙 子	出